



新学習指導要領実施のための 高等学校授業改善研修

高等学校の先生を対象に、8月から11月にかけて教科ごとに「新学習指導要領実施のための高等学校授業改善研修」を実施しました。

高等学校では、来年度から年次進行で新学習指導要領が実施されます。また、県立高校は来年度の入学生から入学時にPC端末を購入してもらい、1人1台端末を活用した新たな学びを推進していくことになります。このような新たな学びに対応するため、「授業改善につながるICT機器の利活用」「新学習指導要領における学習評価」についての講義や演習を行いました。

「授業改善につながるICT機器の利活用」については、まず情報モラルや著作権についての講義を行い、授業だけでなくホームルームや生徒会活動など幅広く活用ができるformsによるアンケートや、共同編集機能を用いた協働学習の場面の演習をしました。その後、地歴公民科では地理情報システム(GIS)、数学科ではグラフや図形の作成ソフトの活用など、各教科の特徴に合わせた授業での活用場面を学びました。今回の研修は、生徒の立場として体験する場面を多く設定したことで、普段からかなり使っている先生方でも多くの気づきがあったという声がありました。

「新学習指導要領における学習評価」では、信頼性や妥当性のある学習評価を行っていくため

には、指導と評価の一体化を図る中で、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要だということ伝え、3観点に整理された観点別の学習評価について、評価規準の作成から評価の総括までの流れの講義を行いました。来年度からの実施に向けて心配される部分はまだあるとは思いますが、各学校での評価計画の作成に向けて見通しを持ってもらいました。

研修後のアンケートでは、ICTの利活用については、「早速使っていこうと思う」「いろいろ使えそうなことが分かったので試してみたい」「まずは教員が慣れることから始めたい」など、学習評価については、「今のうちから準備していきたい」「学校に帰って教科内で話をしていきたい」「学習評価に関する教科主任者会を開く」などの前向きな感想が多くありました。研修後には、学校で考え方や方法について、共通理解を図ることもお願いしています。今回の研修は教科主任の先生を中心とした参加だったので、ぜひ校内で広めてもらい、各学校で「生徒を主語にした授業改善」が進められ、生徒主体の学びが保障されることを期待しています。

この研修は、3年間の^{しゅうかい}悉皆研修となります。2年目となる来年度は、スタートした新学習指導要領の実施状況を踏まえ、授業改善に向けたより効果的な研修を実施していきます。



共同編集機能を使った活用場面の演習



実験の手順を確認する動画配信のようす

管理職も研修に取り組んでいます！

島根県教育委員会では、平成 26 年に策定された「学校管理職等育成プログラム」に基づき、計画的に管理職研修を行っています。今年度も新型コロナウイルス感染症の対策に留意し、オンデマンドによる講義等も取り入れながら研修を行いました。主なものを以下に紹介します。



管理職としての心構えと役割・実務について理解！ ～管理職研修(新任副校長・新任教頭)～

新任副校長・新任教頭対象の管理職研修は、年 3 回の実施となっています。5 月の第 1 回は、学校教育の基本となる「特別支援教育」「リスクマネジメント」「人権教育」について確認するとともに、「教育法規・サービス」について事例を交えながら研修を行いました。

7 月に行われた第 2 回は「評価システム」「リスクマネジメント」「学校経営ゼミ」について。中でもリスクマネジメントは「学校がとるべき災害対応の具体」と「保護者と学校のよりよい関係」の 2 本立てでしたが、災害対策についての内容では、広島市立梅林小学校前校長の中西浩二氏を招き、新型コロナウイルス感染症の対策を施しながら災害対応の実際について学びました。

受講者からは「先日の災害があった後だったので、かなり具体的なイメージをもって研修を受けることができた。同様に、どの研修も「本校の体制で考えると…」とおきかえて考えることができた」「管理職としての心構えや、学校のため、生徒のため、職員のためにさらに頑張りたいという意欲が高まりました」などの感想がありました。

今後学校を支える管理職としてますますの活躍を願っています。

組織的な危機管理体制の構築を目指して！ ～管理職研修(2年目校長)～

経験年数による管理職研修として計画されている最後の研修が、2 年目校長対象の管理職研修です。今年度は 11 月に東部・西部の 2 会場で実施しました。

県内中学校前校長による「信頼される学校づくりのためのスクール・マネジメント」と題した講義・演習では、実際に経験した事例をもとに、校長としての組織づくりや関係諸機関との連携について、気をつけておくべきことや心構えなどについて学びました。また、新任の校長先生と合同の学校経営ゼミを行い、日頃取り組んでいることなどを話し合いました。

受講者からは「校長としてどう学校経営に向かい、リスクマネジメントしていくかということ(経験、実践されたことを交えてのお話だったので)改めて自覚・認識させていくことができた。とても身の引き締まる思いになりました」「学校経営ゼミでの協議は刺激になった。他校の取組も参考にしてみたい」といった声が聞かれました。

今後も学校の柱である校長先生を支えられるような、充実した研修を企画していきたいと思えます。



管理職のさらなる学びとして！ ～小中学校等校長学校経営実践研修&小中学校等教頭学校運営実践研修～

経験年数の異なる校長先生・教頭先生が一堂に会する機会を設けることでより実践的な研修を行うとともに、島根の教育における重要課題について共通理解を図るため、平成 30 年度から小中学校等校長学校経営実践研修が、平成 31 年度から小中学校等教頭学校運営実践研修が、それぞれ^{しゅがい}悉皆研修として始まりまし

今年度は「人権教育」「しまねの学力育成推進プラン」「教職員の働き方改革」「人材育成」などをテーマに、現在県内の各学校が抱えている課題について理解を深めるとともに、自校の状況に落とし込んで考える機会になりました(今年度の小中学校等校長学校経営実践研修はオンデマンド開催)。

受講者からは「『子どもにさせる人権教育から、大人がする人権教育へ』との言葉が印象に残った」「ジグソーパズルのように、一つの正解を早く探し出すのではなく、目的に応じて適したブロックを組み立てる力を必要な学力として捉えるのは、分かりやすかった」「時短オンリーの働き方改革ではなく、意識や生き方の改革を進める必要があるという部分に共感できた」といった感想がありました。

この研修を機会に、各学校の課題改善に向けた動きがさらに広がっていくことを期待しています。

能力開発研修「教職員のかかわる力を高める実践講座」(11/5)

～子どもや保護者への対応にお困りの方、よりよくしたい方へ～
～若手教職員へのよりよい支援をお考えの方へ～

11月5日(金)に、能力開発研修「教職員のかかわる力を高める実践講座」を行いました。本講座は平成26年度から継続して実施している、生徒指導・教育相談にかかわる能力開発研修です。

私たち教職員は日々の学校生活のなかで、子ども・保護者・同僚などさまざまな人とかかわりをもちながら過ごしています。相手とよい関係を築いていきたいという思いは誰しもがもっているものですが、それでも時として、相手との思いの行き違いや予期せぬことは起こり得るものではないでしょうか。本講座では丸1日じっくり時間をかけて、学校におけるさまざまな「人とのかかわり」をテーマに、小グループに分かれての体験的な研修を行いました。日頃の自分の思い、気にかかっている相手(子ども・保護者・同僚等)の思い等について、それぞれのグループごとに、ゆったりと時間をかけて見つめる時間となりました。

受講者の皆さんの感想を紹介します。 ※感想末尾の()は受講者の所属校種です。

ロールプレイを体験し、気持ち様がゆれ動くことを久しぶりにじっくり感じる事ができた。

(小学校)

参加者一人一人の存在を温かく認めてくださり、とても居心地良く感じた。明日から新しい気持ちで頑張れそう。

(中学校)



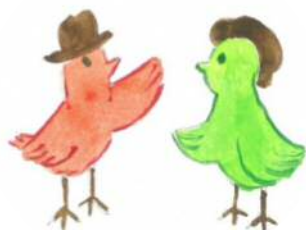
実際に経験した出来事をもとにロールプレイを行ったので、対応の仕方に新しい切り口が発見できた。

(特別支援学校)

体験的な活動やペアでの意見交換などもでき、楽しく学ぶことができた。こうした研修が増えるといいなと感じる。

(小学校)

安心の確保された雰囲気の中で、場面を具体的にイメージしながら、様々な意見や考えを聞くことができ有意義だった。(高等学校)



自分の対応の仕方ですぐに相手が多様な気持ちになるか感じることができた。「人の気持ちを考えて」と簡単に言うが実は難しい。(中学校)

子どもの立場になってみても気づきが多くあった。相手の立場になって考えることの大切さを改めて感じた。(特別支援学校)

日常のかかわりを大切に、小さな変化に気づける自分でありたい。「かかわりたい」と思われる存在をめざしたい。(小学校)

普段の関わりに慣れてしまっている面もあるが、日常の1秒1秒の関わりを大切にしていけばいいと感じた。(中学校)



浜田教育センターです！

研究・研修スタッフ編



浜田教育センターは、「西部地区の教育機関」として、今年度も、学校訪問等を通して授業や研究等のお手伝いをさせていただいています。

今回は浜セの担当である数学/算数・外国語・図画工作/美術・特別活動・複式教育に対する指導主事の“思い”を伝えます！

「子どもの声でつくる算数・数学授業」…主役は子ども。でも、子どもを輝かせているのは先生の努力！

学校訪問に出かけると、児童・生徒のつぶやきや疑問、発見等「子どもの声」がいっぱいの素敵な授業に出会います。授業では、子ども同士が数、式、図、表、グラフ等算数・数学固有の方法で伝え合っている姿が目を見ますが、その影には「子ども主体の数学的な活動」を支える先生方の様々な仕掛けや配慮が必ず存在しています。

導入や課題の興味付け、子どもの声をつなぐ展開の工夫、こどもの「納得解」となるような終末のまとめ方などその支えは多岐に渡りますが、先生の「陰の努力」が濃くなるほど、子どもの「声の輝き」も一層強くなります。

子どもの成長を願い、明確な意図を持った取組に「失敗」はありません。「次の授業改善につながる！」と捉え、チャレンジし続けてください。私達も応援します！(M.H.)

子ども主体の『学び』がそこにあります！

～今、再注目！複式学級の学習指導～

複式教育の特徴的な点として、「学年別指導」「ガイド学習」がよく挙げられます。特にガイド学習は、「授業の主役は子どもである」といった授業観によって成立しています。子どもが自ら課題を追究し、共に学び合う姿がそこにはあります。これは、学習指導要領で求められている授業の在り方にとても近いものではないでしょうか。

複式学級を経験されたことのない先生方、また、授業の質を高めたいと考えておられる先生方、ぜひ複式学級の学年別指導を参考に、授業改善に生かしていただきたいと思っています。(T.S.)

特活×教科の二刀流で、各教科等の学びを総動員！

コロナ禍の中、学校行事を見直された学校が多かったのではないのでしょうか。ある学校では、半日開催となった運動会で子ども達の思いを大切に計画・運営されたところ、保護者・地域の方は納得、そして子ども達にとっては、この年だからこそできるオンリーワンの運動会となったと聞きました。特別活動の意義を感じるエピソードでした。学級活動の話合いでは、算数で活用した意見交換の方法を使って「〇〇の意見が分からないので、もう少し聞かせて」とやり取りしていました。また、「〇〇が心配なんだけど」と相手に配慮しながら伝えたり、似ている意見を合わせたりと、各教科で培った学びを総動員して、自分たちの学級をよりよくしようとする場面に出会いました。各教科等の学びをさらに深めるためにも、特別活動や学級活動とともに進めてみてはいかがでしょうか。(M.T.)

子ども達の“学ぶ意欲”を後押し！

先生はすてきなモデルです。

今年度、学校での授業の様子を見せていただくことができました。その中でも特に小学校での外国語の授業が心に残っています。子ども達が英語を自然に使い、話すことを楽しんでいる様子からコミュニケーションの基礎が育っていると感じます。それは先生方が指導計画のもと、授業を実際のコミュニケーションの場と捉えて指導された結果、子ども達が英語をつかっていることが増えたからだと思います。また子ども達の「できた！」を実感できる授業づくりを工夫されている様子も伝わってきます。そして多くの先生方は指導者であると同時に子ども達と同じように英語学習者として分からないことをALTに質問するなどされています。その姿は子ども達にとって学ぶ大人のモデルになっています。

このような英語を楽しく学ばれる先生方からの非言語メッセージは子ども達の学ぶ気持ちを後押しし、学びを支える強い味方になっているに違いないと感じています。(I.H.)

図画工作・美術を通して

子どもたちの声をきいてみる。

図画工作・美術で「いいな」と思う授業にはこんな共通点があります。それは「先生が子どもたちの思いをしっかりときいている授業」です。

子どもとたくさん対話している…？そうではありません。対話だけではなく、材料や用具を触ってじっくり向き合う姿やできあがった作品、パレットの混色の様子などから、色や形に対するその子の「思い」をとらえようとしている授業です。どんな力を発揮しているのか、どのように造形の見方・考え方を働かせているのか、見ようとしないと見えてこないことってたくさんあります。それを「言わないから分からない」ではなく、いかに引き出すか、つかもうとするか、も大事です。「この子って色や形をどう捉えているのかな」「だからこんなイメージを持ったのね」と思いを“きく”ことで、その子のすごさが分かるはずです。(S.Y.)

学校に出向き、一緒に授業を創っていきたくと思っています。

ぜひご連絡ください！

